

## 生ごみ処理施設を視察して

### 1 駒ヶ根市堆肥施設

#### ◎長所

- ・生ごみ処理をモニター化し、世帯利用して進めていくことが大変良いし、カス（トウモロコシのしん・梅の種・貝殻等）が砕かれ処理されているのが素晴らしい。（機械の投資費用が少ない）
- ・家庭用生ごみ処理機で難のみかんの皮、貝殻、バナナの皮が無理なくできる。
- ・きめこまかな温度管理をすることで、発酵を促進し塩分、貝殻、種等も分解します。
- ・貝殻、魚の骨なども堆肥にすることが出来る。そして塩分を気にしなくてもよいとの事、生ごみを出す側からしたら楽である。
- ・食物の残り物が完全分解されること。
- ・自然に還すこと。お金がかかっても、燃やすごみの減量化のために行っていること。
- ・生ごみの再資源化率 100%への取り組みは感心した。
- ・燃やさないために堆肥化を考えたという課長さんの言葉・発想がすごいと思いました。
- ・燃やさないで「生ゴミは資源」という理念
- ・臭いが少なく清潔な感じがした。何ヶ所か見せていただいた中で一番安定していると思いました。
- ・清潔を保っている。
- ・悪臭等さほど気にならず、作業所内も清潔さを感じ、生ゴミ処理場とは思えない程であった。
- ・においがほとんど無く、作業所がきれいだった。
- ・においが少ない「ドミソ環境方式」の採用
- ・遊休施設を有効利用している。
- ・遊休施設の活用方法としても上手に利用されている。コンパクトかつ高機能。
- ・設備がコンパクトな割に、処理が完璧であると感じた。
- ・人手・手作り感覚のシステム・適正な投資規模なところ。
- ・ベースの投入量が確保され、安定的に処理できる処理機が投入量の増大にできるところ。
- ・市民の協働の型が見えるところ。
- ・EM菌の使用などで減容がしっかりできるところ。
- ・ゴミを出す側で分別さえ気をつければ、回収方法も苦になる程ではない。
- ・もみがらが形状を残さないこと。
- ・最も多量の事業所等より始めたこと。

#### ◎短所

- ・利用者が増えてきた場合に、現状では手狭になってくるとされる。
- ・処理量が増加した場合、処理された堆肥の3ヶ月間の保管場所がせまいものとなる。
- ・規模拡大に対応できるか不安。
- ・新しいゴミ袋が、新しいゴミを生む結果になってしまい残念です。バケツからバケツへ入れて収集する方法がとれたらと思いました。
- ・回収用ビニール袋の処理に課題。
- ・回収時にビニールが何とかゴミにならない方法にできないものか。
- ・生ごみの入れてあった袋の処理が大変である。
- ・投資費用について、燃やす事と堆肥化と比較して、投資効果がどうか？
- ・佐久市の施設にくらべ高コスト。
- ・今後の堆肥の販路等が課題になってくると思います。
- ・家庭のゴミは水分を切ることがむずかしい。(臭いがやすい)
- ・発酵臭がどうしても気になる。当該施設は環境に恵まれているため良いかもしれないが、設置場所は配慮が必要。
- ・投入時、作業者が持ち上げる作業となるので改善できないか。
- ・対象世帯の参加率が29%台で低い。

#### ◎その他

- ・エコポイント活用されており、「つれててカード」と「い〜なちゃんカード」に利用されているので、今後伊那でもこうした形の取れる事も含め検討が必要。
- ・生ごみだけを分別する様に市民に呼びかけ、徹底させるには相当の時間を要す可能性を感じた。
- ・伊那市でもそのまま実施したらよいと思いました。
- ・早くから取り組んでいた事に驚いた。全市内生ゴミ回収に向けて目標が市民にも理解されやすいように感じた。
- ・コスト等などの問題はあがあるが、堆肥として土に戻すという事は自然の形であると思う。
- ・とてもきれいな堆肥になっていて、商品化できると思います。
- ・行政の積極性と業者のまじめな姿勢を感じました。これに市民の協力が得られればすごいと思いました。

## 2 佐久市堆肥製産センター

### ◎長所

- ・地元や地域からの理解が得られて事業が進められた事は大きいと思います。(堆肥の活用) 環境の良い場所に設置されている。
- ・堆肥の販売。全部はけること。
- ・生産された堆肥の売却ルートが確立されているのには感心した。市民意識の向上も両立できている。
- ・堆肥の利用も定着している。
- ・堆肥は非常に軽く、利用しやすい形となっている。
- ・堆肥が安い。しかも優良堆肥である。
- ・牛ふんなども混ざっているので良質の物になると思います。
- ・畜ふんも入れることで堆肥の質もよくなるかも。
- ・素材そのものを自然発酵させる形で無理がない。
- ・臭気対策のレベルの高さはすばらしかった。人員を最小限にとどめていて良い。
- ・においに関しては相当気を使っている。
- ・山の中で収集した生ゴミの臭いが民家まで届かない。
- ・水を繰り返し利用。(温度管理に)
- ・場内で出た汚水と雨水も利用すること。
- ・畜ふんの投入量の減少を他のもので補っていて、大規模な施設を何とか維持継続しているところ。
- ・多量の処理が可能な設備である。
- ・集めてきたものを袋のまま投入口にあけて処理できるということは、手間がかからなくてよいと思います。
- ・事業所等のみでも有料(10円/kg)はよい。(応分の負担は必要)
- ・日本で最初にはじめたという施設、年数が経っていますが方法としては素晴らしいと思いました。
- ・大規模、機械化することで低コスト実現。

#### ◎短所

- ・投資費用は駒ヶ根に比べ大きく、年々修繕費用や運営費が高く負担が大変になってきている。
- ・オートメーション化による、人的コストの圧縮は良い反面、腐食等による修繕費は心配なところ。
- ・メンテナンス費用がかかる。
- ・メンテナンスに多額の金がかかっている。
- ・設備に要する費用がけっこう大きい。
- ・堆肥センターが出来て8年にしては、修繕費が1,000万円位かかるのは大変だと思いました。
- ・堆肥の収納が狭く、近隣の収納場所を確保していかないと今後は大変。
- ・処理・保管が一体でないこと。
- ・堆肥の一時保管場所が必要との事などから、ある程度の広さの敷地が必要となる。
- ・袋やほこり、木の実のタネ等も残ることが残念です。
- ・紙袋で投入するため、残渣が多量に発生する。
- ・最終的に袋の紙とかビニールが残ってしまう。
- ・種や貝殻等処理できると良い。
- ・紙や新聞紙、種(くだもの)などが分解しないこと。特に紙がほこりにしかならない。
- ・ビニールの混入等は、住民にもっと協力を呼びかけてもよいと思った。
- ・駒ヶ根市にくらべ残渣が多い。
- ・ゴミ回収袋が残渣として残る事から改良が課題である。
- ・規模が大きく装置的なところ、ごみの投入量の増減に対応しにくい。
- ・一昔前のやり方に見える。
- ・回収専用車両が必要か？
- ・においが気になりました。

#### ◎その他

- ・臭気が少し気になったがこの程度は仕方ないのか。
- ・袋などを持って買いに来て、安価でもらっていけることは羨ましいことです。
- ・ここでも市民の協力をいかに得るかが課題と思った。行政のごみの削減に対する姿勢が問われ、そのことが強力であってこそ市民の協力も生まれて来ると思う。

### 3 その他

- ・今回の視察研修を通じ、生ゴミから堆肥化について製造工程等の視察と併せ関係者から話を聞き、大変参考になりました。今後、伊那市として、この委員会から提案した事がどれだけ市民に理解を得られるか、内容を含めて検討をしていきたい。
- ・総じて言えることだが、堆肥化は処理完了（資源化）できるまでの日数が非常に必要なのは難点と言える。これを伊那市におきかえた場合、排出量に見合った施設整備を行なうには、少々厳しい気がした。しかし、化石エネルギーを使用しない処理方法は、循環型社会の構築には必要不可欠である。
- ・伊那市でもできるだけ早い時期に実現したい。
- ・市内の公共施設（学校）で使っている処理機に近くに住民の生ゴミを受け入れてみたらよいと思います（特に夏休み中）
- ・処理量とランニングコストを見ると、佐久市に軍配が上がりそうだが、駒ヶ根市のきめこまかな管理と仕上がりも魅力。異なったタイプの視察は大変参考になりました。
- ・利用されている皆さんの声など聞きたい。
- ・同じ堆肥化の施設でも違う点が明確でとても良い視察ができました。
- ・可燃ゴミの3～4割が生ゴミという現状を考えた時、お金はかかるが伊那市でも生ゴミの堆肥化に取り組むべきと思います。
- ・どこの市町村がやっというが、やっていなかろうが自分たちの町のビジョンが欲しい。